

北海道の円形校舎の分布・特色

※イラストは円形校舎部分のみ、矩形校舎が隣接しているものもある
一部資料不足のため、イメージ図となっているものあり

01 吉前郡羽幌町
太陽小学校
設計者不明
昭和37年竣工

単円型 | 体育館のみ | 現存(崩壊)

炭鉱発展時に建てられ、炭鉱の閉山によって人口が減少し、昭和46年に閉校した。昭和57年から宿泊や展示などの施設を備えた「緑の村」の一部として活用されたが、平成13年に閉業した。



02 雨竜郡機加内町
朱鞠内小学校
坂本鹿名夫設計
昭和32年竣工

単円型 | 体育館棟 | 現存


昭和61年に閉校し、平成元年には「ふれあいの家まどか」として宿泊施設となった。元々のドーム型屋根の体育館は残っているが、ほぼ改装され、新設の六角形平面の体験学習館が廊下で繋がっている。



03 網路市
阿寒湖畔小学校
甲上義也設計
昭和31年竣工

単円型 | 体育館のみ | 解体済

緑のドーム型の屋根の体育館を持つ形状であり、「まわり校舎」として親しまれた。体育館の南側には体育館の円弧に沿ったアーチ状の教室棟が設けられていた。幼稚園舎に用途を変えて使用されていた。



04 美瑛市
沼東小学校
設計者不明
昭和35年竣工

メガネ型 | 教室棟2棟 | 1棟のみ現存(廃墟化)


炭鉱発展時に建てられ、炭鉱の閉山によって人口が減少し、昭和49年に閉校となった。他と違い、ペントハウスがなく、中央の円筒状のラストジュートの周りに螺旋階段が設けられている。



05 岩見沢市(旧北村)
北村中央小学校
高岡仁三郎設計
昭和31年竣工

単円型 | 教室棟 | 解体済


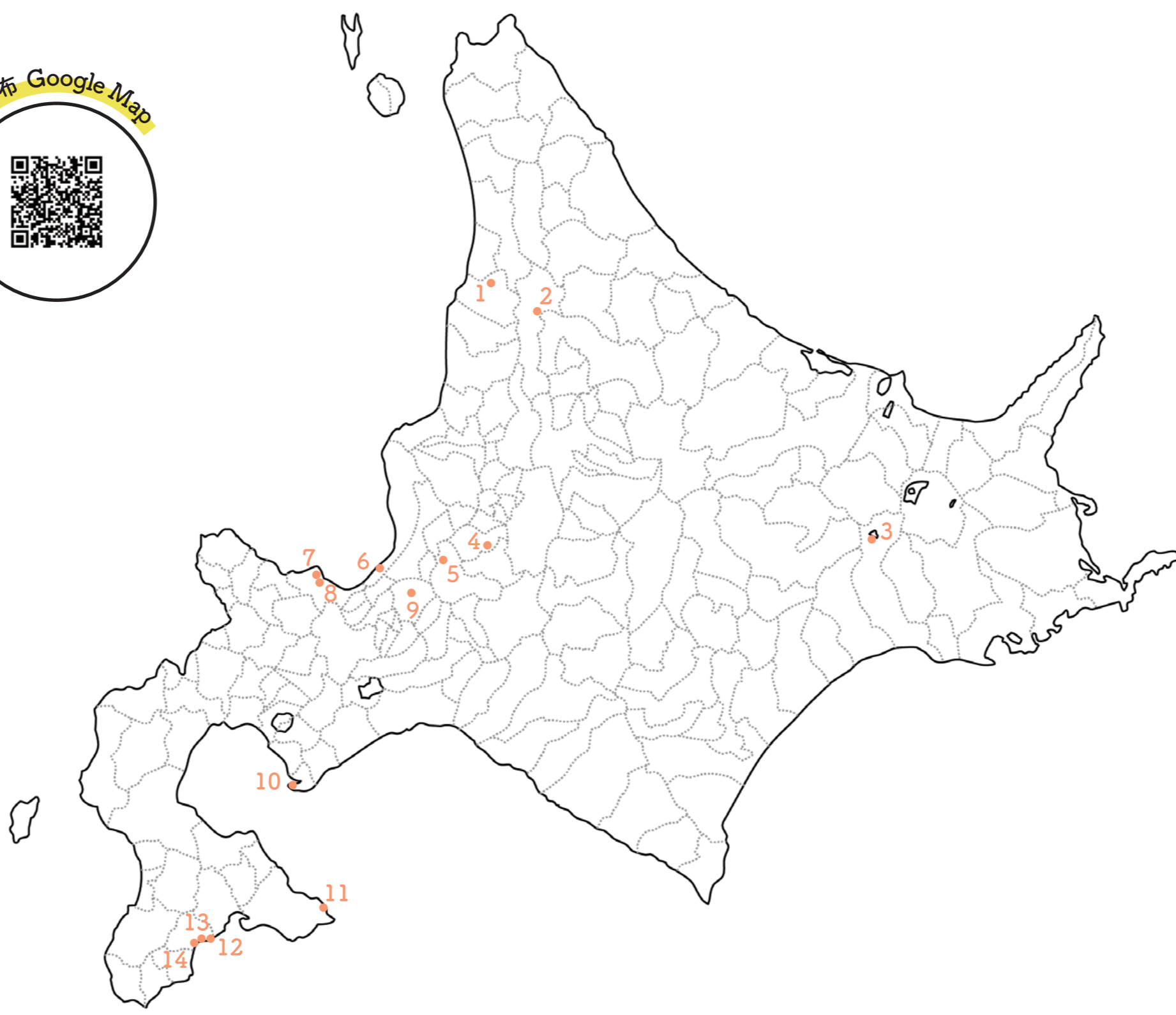
洪水被害を受けた小学校と他の小学校が統合され、北村出身者によって設計されたものである。ペントハウス部分にハイザイドライトが設けられ、螺旋階段は2階に上がる部分までしか伸びていない。



06 石狩市
石狩小学校
大成建設設計
昭和31年竣工

単円型 | 教室棟 | 現存

形状から「缶詰校舎」として親しまれる。令和2年に閉校し、北海道の円形校舎で最も長い期間校舎として利用されていた学校である。令和4年からは校庭が車中泊できるRVパークとして開かれている。

07 小樽市
石山中学校
坂本鹿名夫設計
昭和32年竣工

メガネ型 | 教室棟 | 体育館棟 | 現存(崩壊)


ベビーブームによる生徒数増加に対応するために、増改築を予定していたが、火災で全壊し、円形校舎が建てられた。教室棟は5階建て、体育館棟はドーム型屋根の体育館が最上層にある3階建てである。



08 小樽市
稲穂小学校
設計者不明
昭和36年竣工

単円型 | 体育館棟 | 解体済

ベビーブームによる児童数の増加への対応として、改築が計画され、円形校舎が建てられた。2階にドーム型屋根の体育館がある体育館棟を中央として、鳥が翼を広げたような平面形状の教室棟が設けられた。



※イメージ図

09 江別市
江別第三小学校
坂本鹿名夫設計
昭和32年竣工

単円型 | 教室棟 | 解体済


江別市の特産物の鱈がが外壁に用いられ、校舎内には給食用のリフトが設けられていた。ペントハウス部分は児童が集まる広場として使用されていた。解体前に一般公開が利用された。



10 室蘭市
絵鞆小学校
坂本鹿名夫設計
昭和33、35年竣工

メガネ型 | 教室棟 | 体育館棟 | 現存

市から体育館棟を解体されそうになるも、クラウドファンディングで解体を免れた。ドラマ「Mother」のロケ地である。敷地内に縄文時代の遺跡があったことから、令和4年には縄文展示が行われた。



11 函館市(旧南茅部町)
古部小学校
坂本鹿名夫設計
昭和42年竣工

単円型 | 教室棟 | 現存

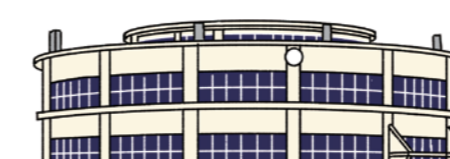
海岸沿いの小さな集落の山側の坂を登った先にある。中央にペントハウスがあるが、その他にも一部分が屋上に突き出した形状をしている。遺跡出土品の収蔵庫として使用されている。



12 木古内町
泉沢小学校
坂本鹿名夫設計
昭和41年竣工

単円型 | 教室棟 | 解体済

ペントハウスがあり、外壁は平成13年頃に塗り直された。昭和53年には札内小学校、木古内小学校と共に開校100周年を迎えた。平成15年に閉校し、木古内小学校と統合された。



13 木古内町
札内小学校
坂本鹿名夫設計
昭和36年竣工

単円型 | 教室棟 | 解体済


ペントハウスがあり、解体前は窓の一部に楕円が設けられていた。昭和53年には泉沢小学校、木古内小学校と共に開校100周年を迎えた。平成15年に閉校し、木古内小学校と統合された。



14 木古内町
木古内小学校
坂本鹿名夫設計
昭和32~34年竣工

3棟連続型 | 教室棟2棟 | 体育館棟 | 解体済

教室棟2棟の間に体育館棟があった。3棟が繋がった珍しい形状であった。昭和53年には泉沢小学校、札内小学校と共に開校100周年を迎えた。平成8年に解体され、他小学校と統合された。



※イメージ図

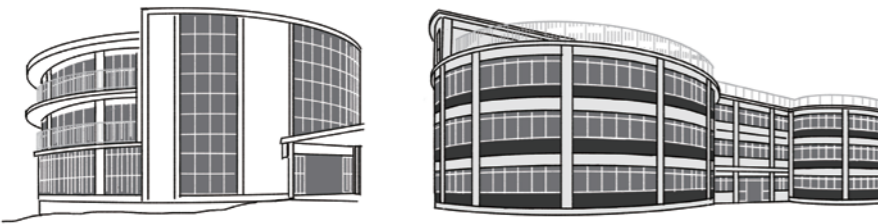
調査 02 北海道の円形病棟

坂本鹿名夫の父親である阪本彰之助は日本赤十字社の副社長を勤めていたことがあり、坂本鹿名夫は昭和30年に独立後初の円形病棟を武蔵野赤十字病院内に設計した。この他にも日本赤十字社の病院や市立病院の円形病棟を設計している。

坂本鹿名夫の作品集「円形建築」には、円形校舎の他に手がけた円形建築として、2つの円形病棟を設計したことが書かれている。

坂本鹿名夫設計の北海道の円形病棟

室蘭病院伝染病棟 (常盤ヶ丘病舎)	遠軽厚生病院
昭和31年3月設計完了 昭和32年3月竣工	昭和32年9月設計完了 昭和32年12月竣工




調査 03 北海道で初の円形校舎

北海道で初めて設計されたとされている円形校舎は、大成建設の札幌支店によって手がけられた石狩小学校で、昭和31年7月に竣工した。設計完了年は明らかになっていない。

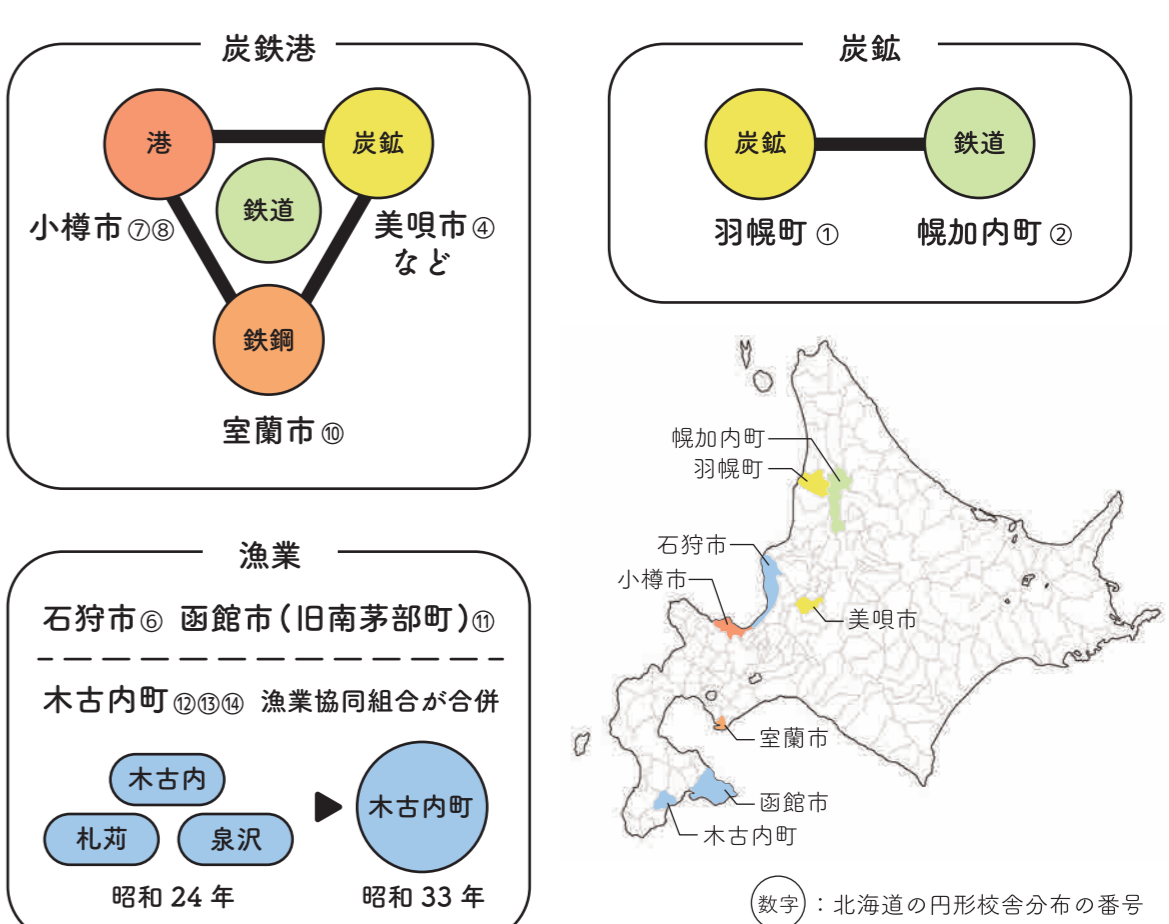
坂本鹿名夫が大成建設の設計部門に所属していたことから、この円形校舎の設計に関わっているかを検討した。坂本鹿名夫が手がけた円形校舎は設計完了から竣工までおよそ1年かかっているものが多く、石狩小学校を坂本鹿名夫が手がけたとして、設計完了年を推測すると昭和30年7月頃となると考えられる。ただ、実際は昭和29年の時点で坂本鹿名夫は大成建設から独立しているため、石狩小学校の設計に関わっていると考えにくい。

北海道の円形校舎だけを見ると、坂本鹿名夫が最初に手がけたのは、昭和31年6月に設計完了した江別第三小学校であると考えられるが、坂本鹿名夫が北海道で最初に設計した円形建築は、昭和31年3月に設計完了した室蘭市の常盤ヶ丘病舎である可能性が高いと考えられる。



調査 04 円形校舎周辺の地域性

円形校舎が建てられた地域を産業面から見ると、炭鉱・鉄鋼・鉄道・港で結びついた遺産群の炭鉄港の地域、炭鉱で発展した地域、漁業で栄えた地域などの共通点や関連性がある。



炭鉄港: 小樽市⑥、美瑛市④、室蘭市⑧

炭鉱: 羽幌町①、機加内町②

漁業: 石狩市⑦、函館市(旧南茅部町)⑩、木古内町⑫⑬⑭、美瑛市④、室蘭市⑧、函館市、木古内町

⑫⑬⑭ 漁業協同組合が合併

木古内、札内、泉沢 → 木古内町

昭和24年、昭和33年

⑧⑨: 北海道の円形校舎分布の番号